

学校教育目標	自ら学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子 人とつながる子
目指す学校像	児童が主体的で自律的な学びを実現するWell-Beingな学校
重点目標	1 自律的な学びの推進 2 教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールの充実 4 教育環境の整備 5 教職員の指導力向上

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価		年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	【自律的な学びの推進】 昨年度は校内研修において、個別最適な学びと協働的な学びの実践を課題の軸として取り組み、児童が自ら考え、決め、実践し、振り返るという学び方の型を体験することで、達成感や充足感、自己肯定感の育みを試み、児童の意識や教員の手応えに一定の成果をあげることができた。 今後はさらに授業実践を積み上げ、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」の活用頻度を向上させ、児童がクラウド上に積み上げた学習履歴を再利用したり、質の高い評価基準を取り考へたりして、学習活動に必要な感をもつて取り組むことを進めていく。	個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルーブリック評価を活用した授業実践</li> <li>ICT 機器やクラウドツールを積極的に活用し、思考や学びの記録と共有を広げる指導の実践</li> <li>さいたま市「アクティブラーニング」型授業、学びの指標「じ・し・ゃ・く」の視点を踏まえた授業の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の学校評価「授業が楽しい」への肯定的回答を95%以上。(R6:91.8%)</li> <li>児童の学校評価「授業がわかる」への肯定的回答を98%以上。(R6:96.9%)</li> <li>学校課題研究アンケートにおける児童の肯定的評価80%以上(新規)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が楽しい」の肯定的回答90.3%で、昨年度を下回り、目標を5割下回った。</li> <li>「授業がわかる」の肯定的回答94.9%で、昨年度を下回り、目標を3割下回った。</li> <li>それぞれ目標は下回ったが、達成度は9割以上であった。</li> </ul>	A	課題：ICT 活用において教職員間で若干の差があること。学校全体の更なる授業方向上を進めていくこと。 方策：指導訪問を活用した授業相互参観を実施する。体験的に学ぶ機会や場面をより充実させる。
		主体的に取り組む行事活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や学年行事の企画・運営への児童参画</li> <li>児童発案を中心とした委員会活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容、活動目標、運営方法、役割分担などについて、児童の話し合いを位置付け、「決める・行う」機会を設ける</li> <li>開閉会式などセレモニーにおける児童挨拶は子ども自身の言葉を重視する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生を迎える会、いじめ撲滅スローガン、運動会スローガン、ボランティア感謝の会など、児童会の代表児童が中心となり、あいさつ等子ども自身の言葉でつくりあげ、主体的な活動に取り組んだ。</li> </ul>	B	課題：児童主体の全校集会を実施することができなかったこと。 方策：なかよしデーを活用しながら、児童主体となる全校集会を実施していく。
2	【教育相談体制の充実】 昨年度はSola ルームを開設し運用を始め、児童の心身の健康を把握し早期対応する「おはようメーター」の活用を開始した。家庭と教員との教育相談をはじめ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家を交えた教育相談、ケース会議を活性化させることで、子どもだけ、保護者だけ、教職員だけで悩みを抱えず、一つ一つのケースに合わせた柔軟な対応ができる体制を構築していく。	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した毎月の教育相談・特別支援教育委員会の確実な実施</li> <li>計画的・組織的なケース会議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な委員会の実施10回以上</li> <li>ケース会議が必要な事案の早期判断と実施及び対応による効果の診断実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、委員会を開催し、10回実施した。</li> <li>ケース会議を複数回実施し、教員他SC、SSW、SAも参加し、多面的に課題対応を繰り返すことができた。</li> </ul>	B	課題：個に応じた支援の充実。 方策：引き続きSC、SSW、SAや各種関係機関と連携して、組織的な対応を進めていく。
		心の支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属感と自己有用感を高めるための異学年交流によるハッピータイム及び委員会活動の充実</li> <li>教育相談日の設定と実施</li> <li>SC、SSWの活用の充実と職員間連携による児童対応の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハッピータイムにかかる活動感想文、委員会活動の自己評価カードでの肯定的評価</li> <li>教育相談日の実施(月1回)</li> <li>教育相談実施保護者アンケートでの肯定的回答80%以上(新規)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、委員会を開催し、10回実施した。</li> <li>ケース会議を複数回実施し、教員他SC、SSW、SAも参加し、多面的に課題対応を繰り返すことができた。</li> <li>毎月委員会議時及び学期末時における児童の自己評価カードにおいて、児童が概ね肯定的に自己評価をすることができた。</li> <li>個人面談日と合わせ、概ね月1回実施</li> <li>「相談・要望への誠実な対応」の肯定的回答93.9%で、目標を14割上回った。</li> </ul>	A	方策：児童が主体として、所属感と自己有用感を高めるための異学年交流、あいさつ運動、体育的活動(長縄跳び等)、いじめ防止のための取組を一層推進していく。
3	【コミュニティ・スクールの充実】 昨年度は開校50周年により、記念事業に絡めて地域やPTAとの協働による取組を進めた。学校運営協議会のテーマ「自分から挨拶ができる子を育てよう」を掲げ、子どもを教職員、地域、保護者、卒業生の中学生で総力を挙げ、挨拶運動に取り組むことができた。しかし挨拶運動が一過性であり、気持ちの持続や習慣の定着には至っていない。子どもたちの課題と同時に、地域、大人たちの課題でもあったことに気付かせていく。	学校運営協議会の熟議の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>熟議の目的を、委員一人ひとりが日頃の心感、実感していることを語り合うこと、課題解決に向かう知恵(取組み)をSSNと連携させて探る合うこと、の2点に焦点化し充実を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員対象の協議会アンケート(新規)</li> <li>「課題(テーマ)の設定について」の肯定的回答80%以上</li> <li>「熟議の充実について」の肯定的回答80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題(テーマ)の設定について」において、肯定回答100%を得ることができた。</li> <li>「熟議の充実について」において、肯定回答100%を得ることができた。</li> </ul>	A	課題：教職員・児童の更なる参加・拡充。 方策：テーマに基づき、教職員や児童の更なる参加を実施する。場合によっては実施時間の見直しを図るなど、全体的な再デザインを行う。
		S S N組織における取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会を中心とし、中学校・PTA・自治会と連携したあいさつ運動の実施</li> <li>SSN感謝会の実施</li> <li>学校プログラムを通じた教育活動の発信の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート「教育活動をよく知っていただくために、学校公開、授業参観、プログラム更新等を適切に行っている」の肯定回答(A評価)60%以上(R6:57.9%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校公開、授業参観、プログラム更新の適切なる実施」の肯定回答60.1%で、昨年度を上回り、目標を上回った。</li> <li>PTAと協力し、「がくぶりで各種お便りを配信し、情報発信と共有を充実させた。</li> </ul>	A	方策：校内で確立した「誰でも」「いつでも」プログラムをアップするためのプログラムを引き続き継続すると共に、プログラムのアップについて積極的に周知を進めていく。
4	【教育環境の整備】 昨年度は校舎外壁の崩落があり、発見直後に立入禁止の非常線を張り、市教委への報告、業者による応急処置と検査の対応へとつなげた。崩落による、児童、職員、保護者すべての来校者、利用者のケガや事故を未然に防止することができた。完全な修繕には至っていないため、課題は残っている。また、校庭に打ち込まれた杭や釘の取残しに注意を払い、職員間で複数回注意喚起をし、事故を防いだ。“Sola 一む”は個別席の充実や心を和ませる装飾などに課題が残っている。	施設・設備に関する環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会への報告・連絡・相談を継続して実施</li> <li>残荷杭調査及び撤去の実施(1学期中)</li> <li>計画的な樹木選定作業の依頼と実施</li> <li>教職員の計画的・組織的調査(毎月10日)</li> <li>敷地内清掃の実施と設備の軽微な補修作業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会への修繕依頼(通年)</li> <li>残荷杭調査及び撤去の実施(1学期中)</li> <li>計画的な樹木選定作業の依頼と実施</li> <li>教職員の計画的・組織的調査(毎月10日)</li> <li>敷地内清掃の実施と設備の軽微な補修作業の実施(通年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通年で依頼を実行。北校ベランダ外壁、2F昇降口外壁、校庭砂場等を修繕実施</li> <li>校庭残荷杭杭調査・撤去は2学期後半実施</li> <li>樹木選定は校地北西道路面樹木を3学期に樹定を実施し、電線等への干渉回避</li> <li>教職員による計画的・組織的調査は毎月10日に実施し、都度補修作業を実施済み</li> </ul>	B	課題：体育館外壁、スプリンクラー、校舎雨漏りの修繕が未完了であること。 方策：学校予算では対応し切れないため、引き続き教育委員会関係課と連携し、進めていく。
		学習環境に関する整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教職員による購入備品希望調査</li> <li>学校予算に照らした適正な教科等備品の購入及び適正な備品廃棄</li> <li>Sola 一むの改善・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入備品希望調査(4月まで)</li> <li>備品購入(6月中)</li> <li>Sola 一むの改善(1学期中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>備品・消耗品の購入希望調査を4月に、購入計画を5月中に取りまとめ、順次購入</li> <li>Sola 一む内に、個別ブース、対面ブース、床敷ブース、ソファスペースを整備</li> </ul>	B	課題：少人数指導教室の整備 方策：少人数指導教室に、個別ブースや対面ブースの整備を進めていく。
5	【教職員の指導力向上】 昨年度は学校課題研修として、研究の方向性や授業の在り方、指導や資料の妥当性について、研修全体会の場で確認をした。また教員が研究グループごとに授業を公開し合い、互いに指導や資料の有効性について協議した。各グループに様々なキャリア段階の職員を配置したことで、メンター・メンティーの関係性を生み出すことができた。さらにグループ間での授業公開をすることで、より幅広い視点による研究に仕上げていく。	学校課題研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業力向上のためのICT活用(クラウドツール)、実践事例の共有</li> <li>アドバイスグループ内またはグループ間での協議、作業、公開授業の実践</li> <li>外部講師を招いた講話による課題研究の実践</li> <li>学校課題研究とリンクした「歯と口の健康づくり事業」の研究授業準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価(保護者)「ICT機器を使った授業を工夫している」の肯定回答(A回答)60%以上(R6:53.2%)</li> <li>指導力向上のための外部講師による講義受講研修の実施(夏季休業中)</li> <li>アドバイスグループによる教職員相互の公開授業(通年、一人1回以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ICT機器を使った授業の工夫」の肯定回答42.9%で、昨年度を下回り、目標を17割下回った。(肯定的回答は87.5%)</li> <li>指導力向上のため、市教委教育研究所指導主事を招いて職員研修を実施した。</li> <li>アドバイスグループを編制し、教員が互いに授業を見せ合う研修を、全教員1回ずつ行った。</li> </ul>	B	課題：学習者用タブレット端末更新及びGoogleWorkSpace への移行に対する対応。 方策：学習者用タブレット端末の操作研修やGoogleWorkSpaceの活用研修を実施する。学校DX推進部を中心に実践事例を積み上げ共有する。
		「子どもと向き合うこと」の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おはようメーター」を活用した、児童の健康状態や気持ちの変化、学習への取組みなどの把握と細やかな支援の実施</li> <li>「子どもと向き合う」場面の調査・研究・実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝の「おはようメーター」の活用</li> <li>「向き合う場面」に関する研修と実践報告会の実施(各学期末)</li> <li>「子どもと向き合う」場面の調査・研究・実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年、全校児童が「おはようメーター」を入力し、「朝の気分」「朝の元気度」「朝食」「昨晚就寝時間」のチェックをし、児童理解生徒指導に生かした。</li> <li>「向き合う場面がどのような場面なのか」を明らかにし、実践事例集を作成した。</li> </ul>	B	課題：児童のおはようメーターの回答率が平均50%であること。 方策：実証研究校の好事例を校内で共有し、教育データ活用への意識向上及び理解促進を図り、児童への指導につなげる。

学校運営協議会による評価

実施日令和8年2月26日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

ICT を活用した「わかる授業」により、児童の発言や活動が活発である。達成度 9 割超は評価できるので、目標継続を期待する。学校行事や委員会活動等、主体的な取組を行わせていることが、児童の成長に寄与していると考えている。

個別支援と組織的対応、専門家との連携等により、安心感が非常に高い。定期的教育相談日の有効性も評価できる。一方でSola 一む等での見守りなどの配慮にも更に期待したい。

熟議の場と児童会・代表委員の主体的活動により非常に評価できる。あいさつ運動やSSN感謝の会など協働の取組が成果を上げてきている。一過性にせず継続・習慣化し、地域・保護者とも連携していけるとよい。

校舎老朽化・雨漏り等の課題に対し、学校はできる限りの安全確保と迅速対応を行っているので評価できる。予算の都合上簡単には解決できないが、PTAや地域協力等も含めて参加型で環境改善を進められるとよいのではないかと。